

1

(1) $m = 10, V = 4.8$

(2) $\frac{3}{2} \leq a$

(3) $a = 9, b = 0, c = 0, d = 2, e = 1$

(4) $\sin x = 1, \frac{3}{5}$

(5) $n = 4$

2

(1) 不等式は $x - 1 \leq (x - 2)^2 \iff x^2 - 5x + 5 \geq 0$ と変形できる.

一方方程式 $x^2 - 5x + 5 = 0$ の解は $x = \frac{5 \pm \sqrt{5}}{2}$ であるから, 不等式を満たす実数 x の値の範囲は, $x \leq \frac{5 - \sqrt{5}}{2}, \frac{5 + \sqrt{5}}{2} \leq x$ である.

(2) 不等式は $3x^2 + 1 > (2|x| - 1)^2 \iff |x|^2 - 4|x| < 0 \iff |x|(|x| - 4) < 0$ と変形できる.

一方 $x \neq 0$ のとき, $|x| > 0$ であるから, $|x| - 4 < 0$ である. よって不等式を満たす実数 x の範囲は, $-4 < x < 0, 0 < x < 4$ である.

(3)

(i) $x < -1$ のとき. $|x + 1| - 2|x| \geq x \iff -x - 1 + 2x \geq x \iff -1 \geq 0$ であるから, 不等式を満たす x は存在しない.

(ii) $-1 \leq x < 0$ のとき. $|x + 1| - 2|x| \geq x \iff x + 1 + 2x \geq x \iff x \geq -\frac{1}{2}$ であるから, 不等式を満たす実数 x の値の範囲は $-\frac{1}{2} \leq x < 0$ である.

(iii) $0 \leq x$ のとき. $|x + 1| - 2|x| \geq x \iff x + 1 - 2x \geq x \iff \frac{1}{2} \geq x$ であるから, 不等式を満たす実数 x の値の範囲は $0 \leq x \leq \frac{1}{2}$ である.

以上から, 不等式を満たす実数 x の値の範囲は $-\frac{1}{2} \leq x \leq \frac{1}{2}$ である.

3

(1) 条件を満たす並び方は, 「母音・母音以外・母音, 母音以外」または「母音以外・母音・母音以外・母音」のいずれかである. よって, この並び方は $2 \times (4 \times 4 \times 3 \times 3)$ 通りである. 一方文字のすべての並び方は $8 \times 7 \times 6 \times 5$ 通りである. よって求める確率は,

$$\frac{2 \times 4 \times 4 \times 3 \times 3}{8 \times 7 \times 6 \times 5} = \frac{6}{35}$$

である.

(2) 3桁の整数は (i) 112, 121, 211, (ii) 122, 212, 221, (iii) 222 である.

(i) の場合の並びになる確率は,

$$\frac{2}{5} \times \frac{1}{4} \times \frac{3}{3} = \frac{1}{10}$$

である.

(ii) の並びになる確率は,

$$\frac{2}{5} \times \frac{3}{4} \times \frac{2}{3} = \frac{2}{10}$$

である.

(iii) の並びになる確率は,

$$\frac{3}{5} \times \frac{2}{4} \times \frac{1}{3} = \frac{1}{10}$$

である.

以上から、得点の期待値は

$$(112 + 121 + 211) \times \frac{1}{10} + (122 + 212 + 221) \times \frac{2}{10} + 222 \times \frac{1}{10} = 177.6$$

である.

4

(1) 与式に $x = -1$ を代入すると $A = A - B + 2$ であるから、 $B = 2$ を得る. 与式に $x = 1$ を代入すると $B = A + B + 2$ を得るので、 $A = -2$ を得. 以上から $A = -2$, $B = 2$ である.

(2) (1) より

$$\int_a^x f(t) dt = -2x^2 + 2x + 2$$

を得るが、この両辺を x で微分すると、 $f(x) = -4x + 2$ を得る. さらに $x = a$ を代入すると、 $0 = -2a^2 + 2a + 2$ を得るので $a = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$ である.

(3) (1) より、 $y = \int_a^x f(t) dt = -2x^2 + 2x + 2$ である. このグラフの x 軸との共有点は、 $x = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$ である. ここで $\alpha = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$, $\beta = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$ とおく. 求める面積は、

$$\begin{aligned}
\int_{\alpha}^{\beta} (-2x^2 + 2x + 2) dx &= \left[-\frac{2}{3}x^3 + x^2 + 2x \right]_{\alpha}^{\beta} \\
&= -\frac{2}{3}(\beta^3 - \alpha^3) + (\beta^2 - \alpha^2) + 2(\beta - \alpha) \\
&= \frac{\beta - \alpha}{3} \{ -2(\beta^2 + \alpha\beta + \alpha^2) + 3(\alpha + \beta) + 6 \} \\
&= \frac{\beta - \alpha}{3} \{ -2(\beta + \alpha)^2 + 2\alpha\beta + 3(\alpha + \beta) + 6 \}
\end{aligned}$$

を得る. 一方 $\alpha + \beta = 1$, $\alpha\beta = -1$, $\beta - \alpha = \sqrt{5}$ である. よって

$$\int_{\alpha}^{\beta} (-2x^2 + 2x + 2) dx = \frac{\sqrt{5}}{3} \{ -2 \times 1^2 + 2 \times (-1) + 3 + 6 \} = \frac{5\sqrt{5}}{3}$$

である.

5

問題 1

(1) $V_n = n^3$ より, $D_n = (n+1)^3 - n^3 = 3n^2 + 3n + 1$ である.

(2) $V_1 = 1$ と (1) より $n^3 = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} (3k^2 + 3k + 1) = 1 + 3 \sum_{k=1}^{n-1} k^2 + 3 \sum_{k=1}^{n-1} k + \sum_{k=1}^{n-1} 1$ である. よって

$$\begin{aligned}
\sum_{k=1}^{n-1} k^2 &= \frac{1}{3} \left(n^3 - 1 - 3 \sum_{k=1}^{n-1} k - \sum_{k=1}^{n-1} 1 \right) = \frac{1}{3} \left(n^3 - 1 - \frac{(n-1)n}{2} - n + 1 \right) \\
&= \frac{n-1}{6} (2(n^2 + n + 1) - 3n - 2) = \frac{(n-1)n(2n-1)}{6}
\end{aligned}$$

よって $\sum_{k=1}^n k^2 = \frac{n(n+1)(2n+1)}{6}$ が示された.

問題 2

(1) $\vec{x} = \vec{a}$ とおくと $0 = \vec{a} \cdot \vec{x} = \vec{a} \cdot \vec{a} = \alpha^2 + \beta^2$ である. α と β は実数であるから, $\alpha = \beta = 0$ である. よって \vec{a} は零ベクトルである.

(2) $\vec{a} \perp \vec{b}$ より, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$ である. よって, 任意のベクトル \vec{x} に対して

$$\vec{x} \cdot \vec{a} = \left((\vec{x} \cdot \vec{a})\vec{a} + (\vec{x} \cdot \vec{b})\vec{b} \right) \cdot \vec{a} = (\vec{x} \cdot \vec{a}) \times |\vec{a}|^2 + (\vec{x} \cdot \vec{b}) \times (\vec{b} \cdot \vec{a}) = (\vec{x} \cdot \vec{a}) |\vec{a}|^2$$

$\vec{x} \cdot \vec{b} = \left((\vec{x} \cdot \vec{a})\vec{a} + (\vec{x} \cdot \vec{b})\vec{b} \right) \cdot \vec{b} = (\vec{x} \cdot \vec{a}) \times (\vec{a} \cdot \vec{b}) + (\vec{x} \cdot \vec{b}) \times |\vec{b}|^2 = (\vec{x} \cdot \vec{b}) |\vec{b}|^2$ である.

ここで、 $\vec{x} \cdot \vec{a} = (\vec{x} \cdot \vec{a}) |\vec{a}|^2$ において、 $\vec{x} = \vec{a}$ とおくと $|\vec{a}|^2 = |\vec{a}|^2 \times |\vec{a}|^2$ を得る。 \vec{a} は零ベクトルではないので $|\vec{a}| = 1$ を得る。

さらに、 $\vec{x} \cdot \vec{b} = (\vec{x} \cdot \vec{b}) |\vec{b}|^2$ において、 $\vec{x} = \vec{b}$ とおくと $|\vec{b}|^2 = |\vec{b}|^2 \times |\vec{b}|^2$ を得る。 \vec{b} は零ベクトルではないので $|\vec{b}| = 1$ を得る。

以上で証明された。